

いのちを支える大田原市
自殺対策計画について

北原 裕子 議員



質問…全国で小中高の自殺者が令和5年度で過去最高となっていることについて、市の考えを伺います。

答弁…令和6年3月に策定したいのちを支える大田原市自殺対策計画では、こどもの自殺対策の推進を重点施策の一つに掲げています。小中学校は、教科化となった道徳の授業において、9年間を通して計画的に生命の尊

さを学び、かけがえのない生命を尊重することについて、自分と結びつけて考えています。毎朝の健康観察、教育相談アンケートでは、心の状態や相談したいことがあるかななどについて、貸与している端末から簡単に入力できるようになっていて、その記述を通して気になる生徒には担任や養護教諭等が声を掛けたり、教育相談を行ったりして、

悩みの早期発見、早期解決に努めています。教育相談においては、定期的に年2回実施し、自分から悩みを打ち明けられない児童生徒とも相談する機会を作っています。また、児童生徒の要望に応じて随時教育相談も行っています。

一般質問



内藤 幹夫 議員

認知症施策推進
基本計画について

質問…認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく暮らせるようにするためには、認知症の人や家族などを参画することはとても重要であると思いますが、本市の考えを伺います。

答弁…大変重要だと考えています。現在認知症の人やその家族、また医療や介護の専門職、ボランティア等が認知症に対する正しい理解、また情報交換を行う

場所として、認知症カフェを開催しており、その中で当事者同士、もしくは家族同士がグループに分かれて討論し合うといった形のものが行われています。そのようなところで出た意見を、今後の計画に反映できるものと思っていますので、次期計画については、当事者意見も反映させながら行っていきたいと考えています。

質問…新しい認知症感という考え方を、周知することについて、本市の考えを伺います。

答弁…住み慣れた地域で希望を持って自分らしく暮らすという考え方ですので、認知症サポーターを養成する講座の中でも周知していきます。また、その他の部分でも、周知できる場面があれば新しい価値観について、周知したいと考えています。